

公益財団法人南砺幸せ未来基金 令和元年度 事業報告書

I 概要と主な成果

令和元年度は、法人設立の2ヵ年目にあたり、平成30年度より引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

(なお、年度途中で公益認定を受けたが法人の目的は変わらないので事業報告はまとめた。)

特に、令和元年度は、以下の5点を重点事業と位置づけ、取組みを進めた。

1. 基金の普及啓発と運用資金の調達

安定した基金運営を行うために、基金の設立趣旨や運用目的などを広く普及啓発を行うことで市民の理解度を高め、運用資金となる寄付金や遺贈金の調達につなげるために次の活動を実施した。

①イベント等での普及啓発

- ・ 6月22日、23日 シルクロード・ネットワーク・南砺フォーラム2019にて「南砺幸せ未来基金」の事例紹介
じょうはな座、参加者およそ40名
- ・ 7月28日 ローカルサミットNEXT in 南砺プレイベント&南砺まちづくりビジョンフォーラムにて話題提供
南砺市クリエイタープラザ桜クリエ、参加者およそ50名
- ・ 10月26、27日 令和元年ローカルサミットNEXT in 南砺にて南砺幸せなSDGs 志民憲章の提案
城端別院善徳寺(26日)、じょうはな座(27日) 参加者のべ300名
- ・ 3月20日 第1回公益財団法人南砺幸せ未来基金ミーティング開催
タイトル「一流の田舎」を目指す共生社会の未来に向けて
アスモ2F大会議室 参加者およそ40名

②広報活動について

ホームページ(ecoto.jp)、SNS(facebook)によるPRを行った。

また、公益認定を受けたことを機に当基金を紹介するためのパンフレット、寄付金控除・遺贈の仕組みをわかりやすく記した冊子、チラシの作成を行った。

3月4日には、当基金の公益化の報告、支援事業の開始を記者発表した。

③訪問による基金運用の説明

3月、当基金の設立準備会より寄付集めに尽力いただいた方を中心に、公益認定の報告及び今後の事業展望、案件発掘について訪問を行った。

2. 基金の公益法人化

令和元年9月20日、富山県文書総務課に公益認定申請書を提出。

同年11月25日、第44回富山県公益認定等審査会（富山県民会館509号室）にて公益認定を承認する旨の答申。12月1日付けで公益認定。

なお、当基金の所管課は、富山県総合政策局地域振興・中山間対策室地域振興課地域振興担当となる。

3. 基金運営のノウハウの蓄積

5月9日、北陸財務局、北陸銀行とクラウドファンディング、ふるさと納税の活用について意見交換を行った。

年度内に6回の事務局会議、9回の業務執行理事会を開催し、組織運用体制の協議（事務局会議、業務執行理事会、理事会・評議員会の位置づけの確認）やクラウドファンディング（プラスソーシャルインベストメントのentry）の実装、地域通貨（飛騨信用組合のさるぼぼコイン）の研究等に取り組んだ。

業務執行理事会では、城端地域の古民家活用による民藝館の可能性についての研究、井波地域にある井波美術館の活用の研究に取り組んだ。（いずれも諸事情のため案件組成までは至らなかった。）

休眠預金活用については、5月21日に名古屋市で開催された休眠預金活用公募説明会に、事務局員2名が参加。令和2年度の応募に向けて研究を進めている。

また、愛媛県西条市で11月15日に開催された、西条市ローカルファンド研究会に業務執行理事2名が参加し、当基金の事例発表、意見交換を行った。

4. 事務局体制の整備と充実

当基金の事務局体制を充実させるため、臨時の従業員を1名雇用した。なお、令和2年度も雇用を継続した。

また、当基金の事務所を、南砺市山見1739番地2 アスモ2F なんと未来支援センター内に設置した。（令和2年4月1日より開設）

事務所には、臨時従業員1名が火～木曜日まで勤務する体制とした。

中間支援組織「(一社) なんと未来支援センター」と相互に会議、打合せへ出席し情報共有を深めた。

人材育成の面では、南砺市が開催したファンドレーザー育成プロジェクト（6回シリーズ）に業務執行理事1名、事務局から2名が参加。寄付金集めの手法（ファンドレイ

ジング) を学んだ。

さらには、当基金の5ヵ年ロードマップを作成し、目指す方向、やるべき事、数値目標の「見える化」を行った。

5. 基金活用事業の募集と支援の研究

地域課題解決に寄与すべく、支援事業「令和2年度第1回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業」の募集要項を策定した。

また、審査選考委員会設置要綱を策定し、募集のあった案件に対する審査選考体制を構築した。

「令和2年度第1回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業」は、令和2年3月1日～4月30日の期間で募集を行った。

II 運営に関する実績

1 寄付金の状況

7件 132,175円

(一般財団法人として 4件 42,300円、公益財団法人として 3件 89,875円)

2 会議状況

(1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第1回業務執行理事会	4月17日	平成30年度事業報告及び収支決算について 平成31年度事業計画について 南砺幸せ未来基金ロゴマークについて ローカルサミットNEXT in 南砺について
第2回業務執行理事会	5月15日	平成30年度事業報告について 平成30年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について 令和元年度事業計画について 令和元年度収支損益予算書について 令和元年度事業スケジュール 支援事業審査選考委員会 ローカルサミット in 南砺、プレイベント
第3回業務執行理事会	6月12日	公益財団法人化について 休眠預金について 支援事業選定委員会について

		地域通貨について クラウドファンディングについて 城端地域の民藝館について ローカルサミット&まちづくりビジョンフォーラム について
第4回業務執行理事会	7月24日	城端地域の民藝館について 公益財団法人化について SDGsによる基金運用体制について ローカルサミット&まちづくりビジョンフォーラム について
第5回業務執行理事会	9月13日	城端地域の民藝館について SDGs推進事業について
第6回業務執行理事会	10月21日	公益認定申請について 事務局体制について
第7回業務執行理事会	12月13日	公益認定申請の結果について 今後の事業計画、事務局体制について 井波美術館について
第8回業務執行理事会	1月17日	支援募集要項等（審査選考委員会設置要綱、スケジ ュール） シンポジウムの開催について マスコミ発表について
第9回業務執行理事会	2月14日	シンポジウムの開催内容について 理事会の開催について

(2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	5月15日	平成30年度事業報告について 平成30年度貸借対照表及び正味財産増減計算書に について 令和元年度事業計画について 令和元年度収支損益予算書について 令和元年度事業スケジュール 支援事業審査選考委員会 ローカルサミットin南砺、イベント
第2回理事会	8月23日	公益認定申請について 臨時評議員会の開催及び目的事項の決定について

第3回理事会	2月14日	令和2年度事業計画（案）について 令和2年度収支予算（案）について 審査選考委員会設置要綱について 令和2年度南砺幸せ未来基金 頑張る人・地域応援 事業募集要項について
--------	-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 評議員会

会議名	日時	内容
第1回評議員会	5月15日	平成30年度事業報告について 平成30年度貸借対照表及び正味財産増減計算書に について 令和元年度事業計画について 令和元年度収支損益予算書について 令和元年度事業スケジュール 支援事業審査選考委員会 ローカルサミットin南砺、プレイベント
臨時評議員会	8月23日	公益認定申請について 定款の一部変更及び理事、監事及び評議員の報酬等 の支給の基準について

(4) 監査の実施

令和元年5月14日、監事（2名）が平成30年度の監査を実施し、監査報告書を作成した。

(参考記載)

事務局会議（*定款に定めはないが、業務執行理事会の議題の整理・調整のため実施したもの）

会議名	日時	内容
第1回事務局会議	5月10日	審査委員会について スケジュールについて 休眠預金活用について
第2回事務局会議	6月6日	公益認定申請について 休眠預金活用について 支援事業選定委員会（要綱、委員会）について 地域通貨の検討（さるぼぼコインヒアリングなど） 城端地域の古民家に関するクラウドファンディング について ローカルサミットについて

		シルクロードフォーラムについて 寄付者の謝礼と基金運用の説明について（南砺市職員OB会にむけて） 国補助事業の検討
第3回事務局会議	7月19日	審査選考委員会設置要綱（案）について
第4回事務局会議	11月28日	基金となんと未来支援センターの関係性について 事務局体制について 業務内容の役割分担と人材育成について 体制整備と案件発掘について 具体的な事業計画について 設立時オーナーへの協力と連携について 支援事業の募集と資金調達の依頼について ガバナンスについて 基金と支援センターの事業計画やスケジュール感の共有について
第5回事務局会議	12月11日	5ヵ年ロードマップについて
第6回事務局会議	12月25日	5ヵ年ロードマップについて プレスリリースについて SDGs補助を活用した支援について 相談窓口の開設について シンポジウムについて 不動産取得税・遺贈等の非課税についての調査結果

3 寄付者の名簿作成

平成30年度に引き続き、寄付者の名簿を整備した。

4 受託事業

南砺市より地域課題解決や資金循環に資する取組みを進める目的の業務委託を受託している。

（1）南砺幸せ未来基金事業実施体制構築業務委託

契約額 1,628,000円

期間 令和元年11月2日～令和2年3月31日

内容 事務局業務を遂行するための従業員の雇用
体制強化に関すること
支援内容の告知に関すること

(2) 説明会等開催委託業務

契約額 858,000 円

期 間 令和2年1月11日～令和2年3月31日

内 容 説明会開催

地域通貨研究

5 他機関等の連携

特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

連携団体

- ・南砺市
事業の受託、事務局業務
- ・(一社) なんと未来支援センター
地域課題解決に向けた情報共有、連携
- ・(一社) 場所文化フォーラム
令和元年ローカルサミットNEXT in 南砺の開催

公益財団法人南砺幸せ未来基金

令和2年度 事業報告書

I 概要と主な成果

令和2年度は、法人設立の3ヵ年目にあたり、令和元年度より引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

特に、令和2年度は、以下の4点を重点事業と位置づけ、取組みを進めた。

1. 基金の普及啓発と運用資金の調達

安定した基金運営を行うために、基金の設立趣旨や運用目的などを広く普及啓発を行うことで市民の理解度を高め、運用資金となる寄付金の調達につなげるために次の活動を実施した。

【普及啓発】

- ・4月及び11月、当基金の設立準備会より寄付集めに尽力いただいた方に今後の事業展望について訪問。
- ・地域づくり協議会連合会の定例会や意見交換会で当財団の取組みを紹介。
- ・富山国際大学の「地域づくり実習」で学生を受け入れ基金の取組を紹介。
- ・「なんと未来創造塾」に基金の取組紹介資料を提供。
- ・会報（ニュースレターvol.00）の発行
- ・ホームページ、フェイスブックによる情報発信
- ・マスコミ各社に対するプレスリリースの発信

【運用資金の調達】

・寄付金の呼びかけを行い、一般寄付（使途の定めのない寄附金）が29件 3,015,000円、指定寄付（事業指定寄付プログラム対象寄付）が22件 548,000円の実績。

なお、閑乗寺公園キャンプ場の薪の販売益の一部を寄付いただいている。（当財団の業務執行理事でもある楠則夫氏より）今後の寄付付き商品の展開において大きなヒントになる事例であった。

2. 基金運営のノウハウの蓄積

【会議運営】

運営体制の基盤強化を図るために財団内で協議を行った。年度内に44回の事務局会議、10回の業務執行理事会を実施している。

12月には一般社団法人全国コミュニティ財団協会に加入。これにより全国のコミュニティ財団との交流が可能となり、12月17日には全国コミュニティ財団協会中部北陸ブロック会議、1月12日には全国コミュニティ財団協会の総会にもオンラインで参加している。

【所管庁の立入検査】

12月16日には、所管庁である富山県地域振興課の立ち入り検査を受けており、事業計画書等の提出日の遵守、役員の変更登記は2週間以内に行うことの指摘を受けている。今後適正な財産運営に努めていく。

【まちづくり事業の情報収集】

案件発掘のためにまちづくり事業の情報収集に積極的に取り組んだ。後述する休眠預金活用助成に関したものが主であるが、49回情報収集に取り組んでいる。

9月19日には認知症支援の取組に関する事業相談会、9月29日には引きこもり支援の取組に関する事業相談会を実施。10月28日には認知症フレンドリー社会を井波地域に構築する事業準備会、11月16日には引きこもり・精神障害者の支援を南砺市に構築する事業準備会を実施している。

【電子地域通貨の調査・研究 土徳コインプロジェクト】

地域内資金循環の手法である「電子地域通貨」の調査・研究を南砺市の受託事業として実施した。キックオフミーティングを7月31日に実施。(参加35名)講師に飛騨信用組合の古里圭史常勤理事を招き基調講演「さるぼぼコインで目指す地域経済循環促進」を実施した。年度内に4回の研究会、11月7日には高山市の視察を実施し「さるぼぼコイン」を実際に使い使用感を確かめた。令和3年度は令和2年度に明らかとなった課題の解決に取り組む必要がある。(市民ニーズの把握、持続可能な実装モデル)

3. 事務局体制の整備と充実

【事務局体制】

臨時職員1名、事務局員1名の体制で事務局を構成した。

助成事業が本格的に開始(春・秋2回の頑張る人・地域応援事業、コロナ禍緊急支援、事業指定寄付プログラム、休眠預金等活用助成)の中、堅調な財団運営が図れた。

しかしながら、休眠預金等活用助成の資金分配団体に採択されたこともあり、想定していたより業務量が増加している。さらには休眠預金等活用助成の研修プログラムから「成果達成型の助成プログラム」や伴走支援の重要性の気づきがあり、これを展開していくためには人的・資金的な資源の不足を実感している。

臨時職員1名は退職したものの、当財団担当の地域おこし協力隊が令和3年4月1日より着任したことで一定の成果は期待できるが、更なる充実を図るべく事務局体制の整備を進めていく。

3月29日には当財団の南代表理事が南砺市役所と中間支援組織の在り方に関する意見交換を行っている。行政でも民間でもない「中間支援組織」として存在感を示していく必要がある。

【なんと未来支援センターとの連携】

なんと未来支援センターとは情報共有は行っているものの、当初描いていた案件組成（なんと未来支援センターに相談 → 当財団につなぐ）の形はまだ構築されていない。

今後、地域の困りごと解決やソーシャル・コミュニティビジネスの展開が重要となってくるため案件組成の形の構築は課題である。

4. 基金活用事業の募集と支援の研究

令和2年度は当財団が本格的に助成事業を開始した年となった。地域資源を活用した取組みを応援する事業（頑張る人・地域応援事業）やコロナ禍の支援（コロナ禍緊急支援）、特定の事業に関する助成プログラム（事業指定寄付プログラム）及び休眠預金等活用助成事業を実施した。

【頑張る人・地域応援事業】

地域資源を活かした取組であり、当財団が掲げる7つにテーマに即した事業を募集するもの。第1回目は公募期間3月1日～4月30日、第2回目は公募期間10月1日～10月30日で実施した。助成金は1団体等あたり30万円を上限とし、助成期間は1年を基本とし最長3年までとしている。応募の詳細は以下のとおり。

○第1回

- ・応募数 9団体（うち1団体取り下げ）
- ・採択数 3団体
- ・採択団体・事業概要

団体名	事業概要	助成額
① なんとのね	安心・安全で美味しい農産物のPRとブランド化 生産力・栽培技術の向上と持続可能な農業の普及	300,000円
② テラまちコネクト	オリジナルお念珠づくり「ジュ・ジュエリー」づくり 瑞泉寺と井波のまちの歴史を学べる絵本づくり	297,380円

③ ふくみつつ (*3年間事業)	ほっこり塾の実施、なんと形シェアハウスの構築	300,000円
合計助成額		897,380円

・審査選考委員会 令和2年5月14日(木)13:30～
アスモ2F大会議室

- ・審査選考委員 ■■■■■ (理事・業務執行理事) *委員長
- (理事・業務執行理事)
- (理事・業務執行理事)
- (理事・業務執行理事)
- (外部委員 北陸銀行福光支店長)

選考委員会は申請者のプレゼン5分、質疑5分の形式で行ったが、時間の不足が指摘され、第2回目ではプレゼン10分、質疑10分に改めている。

○第2回

- ・応募数 4団体 (うち1団体取り下げ)
- ・採択数 3団体
- ・採択団体・事業概要

団体名	事業概要	助成額
① にほんご広場なんと	外国人コミュニティにコロナ禍における正しい情報の定期的な提供とその対策の徹底	180,000円
② 大鋸屋地域づくり協議会	冬期間の除雪困難な要支援者の特定と除雪の実施	300,000円
③ まなざしなんと	子どもと子育て世代への情報発信	300,000円
合計助成額		780,000円

・審査選考委員会 令和2年5月14日(木)13:30～
アスモ2F大会議室

- ・審査選考委員 ■■■■■ (理事・業務執行理事) *委員長
- (理事・業務執行理事)
- (理事・業務執行理事)
- (外部委員 北陸銀行福光支店長)
- (外部委員 寺子こども園代表)

第1回目は審査選考をクローズドで実施したが、第2回目は他の申請者の発表を傍聴できる形式とした。申請取り下げした団体は傍聴可能の方式に嫌悪を示しており、適正な審査選考について考慮する必要がある。

1回目の採択団体は9月に、2回目の採択団体には3月にヒアリングを実施しており、事業の進捗確認を行った。

【コロナ禍緊急支援】

新型コロナの影響から日常生活に支障の出ている市民への必要な支援活動を行う地域や町内会、各種団体、事業者等に対して、その活動に必要な経費を支援した。

このプログラムは有志から 100 万円の寄付が集まり可能となった。

支援の上限は 5 万円。活動期間は 1 ヶ月（令和 2 年 5 月）とした。また緊急性を重視し申込のみにより助成の有無を決定している。

・支援メニュー

① 高齢者への支援（買物支援）

高齢者の買物支援に取り組む地域づくり協議会などを支援

② 子どもに対する支援（子ども向け配食サービス支援）

食事をとるのが困難な児童生徒の家庭に子ども向けの配食サービスを行う団体等を支援する

③ 飲食店への支援（テイクアウトメニューへの支援）

テイクアウトメニューを開始した店舗の配達に係る費用を支援する

・実施団体、概要

団体名	事業概要	支援額
口福食彩 花華	飲食店テイクアウト	45,931 円
かようまいけ館	高齢者への配食サービス	50,000 円
サロンひまわりの会	福祉施設への千羽鶴贈呈	17,882 円
大鋸屋地域づくり協議会	高齢者への買い物支援	50,000 円
合計支援額		163,813 円

【事業指定寄付プログラム】

南砺市内の課題の解決に真摯に取り組む市民活動を支える社会をつくるために、広く寄付を募り、寄付文化を創り出すことを目的とし開始した。

このプログラムは当財団を言わば貯金箱として使い寄付を集めるもの。寄付者は税制優遇措置を受けることができる。当財団は集まった寄付額の 5%を運営費として受け取る。採択は業務執行理事会で審議し決定した。令和 2 年度には 2 件の応募があり、2 件とも採択とした。

・採択された事業

No.1 子どもの権利条約フォーラム 2020in 南砺

申請者 子どもの権利条約フォーラム 2020in 南砺実行委員会

申請日 令和 2 年 9 月 2 日

採択日 令和 2 年 9 月 4 日の業務執行理事会（全会一致）

目標額 500,000 円 達成額 105,000 円 当財団運営費 5,200 円

No.2 捨てられた命を救おうプロジェクト

申請者 にゃんと・ボランティアネットワーク

申請日 令和2年9月28日

採択日 令和2年10月2日の業務執行理事会

目標額 1,000,000円 達成額 443,000円 当財団運営費 22,100円

いずれも目標額には届かなかったが、一定の効果を上げられたと感じている。
ただし現状の制度だと申請者の負担ばかりが目立ってしまうため、プログラムの見直しが必要である。

【休眠預金等活用助成事業】

○休眠預金等活用とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成28年法律第101号）」に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度

○資金分配団体として採択

当財団、公益財団法人東近江三方よし基金（滋賀県東近江市 理事長 ■■■■■）、公益財団法人うんなんコミュニティ財団（島根県雲南市 代表理事 ■■■■■）がコンソーシアムを組み設立した「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」は休眠預金を活用して一般財団法人日本民間公益活動連携機構（所在地 東京都千代田区、略称 JANPIA）が実施する、草の根活動支援事業（全国）の資金分配団体として採択された。

“複雑化・複合化した孤立の解消は、地域の様々な関係者が総働で挑むことが不可欠であり、人的資源も含めた地域資源を把握して個別にアウトリーチ・支援できる市域レベルの中間支援組織だからこそ実施できる”と志を同じくした三法人が連合を組んだもの。

募集のメインテーマは

「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」

サブテーマが

「日本の変革をローカルアクションの共創から実現する」とし、

対象事業を

- ① 経済的・物理的距離により学ぶ機会を失った子ども・若者へ学習の場や心のケアを提供する活動
- ② ひきこもり、障害、認知症等の疾患、在住外国人へのアウトリーチを地域参加に

つなげ、地域で働き・暮らせる支援活動

- ③ 産前産後の母親、ひとり親へ個別訪問や集いの場づくり
 - ④ 若者・移住者に地域産業の就労、地域資源を活用した起業などの働きと、居場所があり地域とつながり暮らせるような支援活動を実施する団体の伴走支援と広報
- とした。

○実行団体の決定

実行団体の公募を12月21日から1月24日まで行い、6団体の応募があった。

2月11日に審査会を実施し、4団体を選考。2月26日の理事会にて内定を決定した。採択団体は事業計画、資金計画、評価計画のブラッシュアップを実施した上で令和3年4月に当財団と資金提供契約を締結した。

- ・審査会 令和3年2月11日（木）13：30～
アスモ2F大会議室
- ・選考委員 ■■■■■（富山大学附属病院総合診療部教授）*委員長
■■■■■（社会福祉法人黒部市社会福祉協議会）
■■■■■（富山銀行）
■■■■■（㈱人づくり・学び舎代表）
■■■■■（南砺市総合政策部長）
- ・採択団体

申請者名	事業名	契約助成額
社会福祉法人マーシ園	引きこもりや精神障害があり孤立状態の人に社会参加の環境を創る	8,400,000円
なんとおせっ会移住応援団	空き家対策・移住・定住促進事業	6,767,000円
株式会社ガラパゴス	桜ヶ池キャンプ場	8,080,000円
テラまちコネクト	お寺初！おかあさん目線の雇用創出事業	6,796,500円
助成金合計		30,043,500円

*助成期間（～2023年2月末まで）の合計

*契約助成額に評価関連経費も含む

○プログラムオフィサー

休眠預金等活用助成にはプログラムオフィサーが伴走支援を行う。

当財団のプログラムオフィサーは■■■■■であり、事業終了まで伴走支援を実施する。

II 運営に関する実績

1 寄付金の状況

一般寄付金 29件 3,015,000円

指定寄付金 22件 548,000円

2 会議状況

(1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第1回業務執行理事会	4月27日	頑張る人・地域応援事業選考委員会について 役員の改選について 寄付集めの戦略について 理事会、評議員会の開催について 休眠預金助成事業の応募について コロナ緊急支援策について
第2回業務執行理事会	5月25日	理事会の議事について 理事会の報告事項について 寄付集め戦略について
第3回業務執行理事会	6月26日	休眠預金活用の応募について 南砺土徳コインプロジェクトについて 会報の発行について
第4回業務執行理事会	7月31日	休眠預金活用の応募について（報告） 事業指定寄付プログラムについて 災害支援金について 土徳コインプロジェクトについて
第5回業務執行理事会	9月4日	下半期のスケジュールについて 休眠預金活用の進捗について 頑張る人・地域応援事業の募集要項について 事業指定寄付プログラムの採択について 土徳コインプロジェクトについて
第6回業務執行理事会	10月2日	事業指定寄付プログラムの採択について 休眠預金活用の進捗について 土徳コインプロジェクトについて
第7回業務執行理事会	11月6日	休眠預金活用の進捗について 頑張る人・地域応援事業の選考委員会について 土徳コインプロジェクトについて 日本ファンディング協会への入会について
第8回業務執行理事会	12月18日	休眠預金活用の進捗について

		土徳コインプロジェクトについて
第9回業務執行理事会 (コロナの影響を考慮し、中止)	1月22日	休眠預金活用の進捗について 土徳コインプロジェクトについて
第10回業務執行理事会	2月26日	休眠預金等活用制度に基づく助成事業の承認について 令和3年度事業計画(案)について 令和3年度収支予算(案)について 土徳コインプロジェクトについて
第11回業務執行理事会	3月19日	令和3年度事業計画の詳細について

(2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	5月25日	令和元年度事業報告 令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書 役員の改選について 評議員会の開催及び目的事項の決定について 令和2年度第1回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業の結果について
第2回理事会	6月26日	代表理事の選定について 業務執行理事の選定について
第3回理事会	10月2日	規程類の承認について
第4回理事会 (ZOOM開催)	12月9日	JANPIAとの資金提供契約の締結について 令和2年度事業計画と収支予算の変更について 令和2年度第2回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業の結果について
第5回理事会	2月26日	休眠預金等活用助成事業の実行団体採択の承認について 令和3年度事業計画(案)の承認について 令和3年度収支予算(案)の承認について

(3) 評議員会

会議名	日時	内容
第1回評議員会 (書面決議)	6月15日	令和元年度事業報告 令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書

		役員の改選について 補欠評議員の選任について
--	--	---------------------------

(4) 監査の実施

令和2年5月22日、監事（2名）が令和元年度の監査を実施し、監査報告書を作成した。

(参考記載)

事務局会議（*定款に定めはないが、業務執行理事会の議題の整理・調整のため実施したもの）年度内に44回の事務局会議を実施した。

3 寄付者の名簿作成

令和元年度に引き続き、寄付者の名簿を整備した。

4 受託事業

南砺市より資金循環に資する取組みを進める目的の業務委託を受託している。

○地域内資金循環推進事業業務委託

契約額 760,100円

期 間 令和2年7月1日～令和3年3月31日

内 容 地域内資金循環をテーマとしたセミナー開催
電子地域通貨の研究

5 他機関等の連携

特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

連携団体

- ・南砺市
事業の受託、事務局業務
- ・(一社) なんと未来支援センター
地域課題解決に向けた情報共有、連携
- ・公益財団法人東近江三方よし基金、
- ・公益財団法人うんなんコミュニティ財団
休眠預金事業の資金分配団体としてコンソーシアムを構成
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
休眠預金事業の指定活用団体

公益財団法人南砺幸せ未来基金

令和3年度 事業報告書

I 概要と主な成果

令和3年度は、昨年度に引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、持続可能な循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

法人設立の4ヵ年目にあたり、助成事業の拡充および財団運営の基盤構築に向けて以下の4点を重点事項として位置づけ取り組みを進めた。

1 普及啓発と運用資金の調達

安定した財団運営を行うために財団の設立趣旨や運用目的などを広く普及啓発を行うことで市民の理解度を高めるとともに運用資金となる寄付金や遺贈金の調達につなげるために次の活動を実施した。

【普及啓発】

- ・助成実行団体による活動報告会（5月15日）を開催。コロナ禍のため会場とオンラインでの参加ができるよう工夫した。発表団体6団体、参加者35名（会場・オンライン含む）
- ・当財団役員（評議員、理事）を中心とした法人企業に、これまでの事業内容の報告や、今後の事業展望についての説明と要望等のヒアリングを行った。
- ・事業報告書『アニュアルレポート（2020～2021）』の発行
- ・会報（ニュースレターvol. 2）の発行
- ・ホームページのほか、Facebook、Twitterによる情報発信
- ・マスコミ各社に対するプレスリリースの発信
- ・地域づくり協議会連合会の定例会や意見交換会において、当財団の取組みを紹介。
- ・コミュニティメディカルデザイナー養成講座で当財団の取組みを紹介。
- ・守り育てる会で当財団の取組みを紹介。
- ・「デジタル南砺の輪」定例ゲストスピーカーとして当財団の取組みを紹介。
- ・広域議員勉強会における講師として当財団の取組みを紹介。

【運用資金の調達】（寄付金・遺贈）資金調達の仕組みづくり

寄付金の呼びかけを行い、一般寄付（使途の定めのない寄附金）10件、825,852円、サポーター一会員年会費（4件、400,000円）の実績。寄付付き商品や、事業収入の一部からの寄付等、法人企業のヒアリングから寄付の仕組み提案を行った。

- ・定期的な寄付の仕組みを検討し「サポーター会員制度（法人・個人）」を創設し、令和4年度からの本格運用を目指す。
- ・遺贈に関する取り組みとしては、一般社団法人全国レガシーギフト協会（<https://izoukifu.jp/>）に、正会員として加盟し「遺贈寄付の相談窓口」となった。

2 財団運営のノウハウの蓄積

財団運営のための組織や財務について調査研究し、適正な運用を図る。また、融資や投資など基金運用における手法を研究することで新たな基金運用に備える。

【会議運営】

- ・運営体制の基盤強化を図るために、定期的に財団内で協議を行った。年度内に46回の事務局会議、4回の業務執行理事会を実施している。

【組織基盤強化】

- ・一般財団法人非営利組織評価センター (<https://jcne.or.jp/>) のベーシックガバナンスチェック（第三者評価）を受け、情報開示に積極的な透明性の高い組織運営に努めている。
- ・昨年度に引き続き、一般社団法人全国コミュニティ財団協会との交流および研修会に参加し、コミュニティ財団として知識や他団体とのつながりの構築に努めている。

【電子地域通貨の各種勉強会の実施】

- ・地域内資金循環手法である「電子地域通貨」の調査・研究を南砺市の事業を受託し、調査・研究とともに、普及啓発活動に寄与する活動を実施した。アンケート等より地域通貨という仕組み（手法）を導入することによって地域を意識し、地域内への消費行動への動機付けを行うことが可能となることがわかった反面、消費者にとっては、利便性やメリットが手法を広める強い要因となることの確認も行われた。
- ・市民フォーラムを3回（4月、7月、3月）開催。
- ・弊財団で開発した「地域通貨体験ゲーム」を2団体から依頼を受け、実施した。

【まちづくり事業の情報収集】

- ・案件発掘・案件組成のために、まちづくり事業の情報収集に積極的に取り組んだ。後述する休眠預金等活用事業の助成に関するものや、頑張る人・地域応援事業助成に関する事など、助成事業に関することを中心に相談を受け（実績 181 件）情報収集や分析を行った。

【休眠預金等活用事業に係る連携先コミュニティ財団との意見交換】

- ・2021 年度休眠預金等活用事業において「公益財団法人東近江三方よし基金（滋賀県東近江市 理事長 ████████）」、「公益財団法人うんなんコミュニティ財団（島根県雲南市 理事長 ████████）」とコンソーシアムを組み設立した「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」では、三つの資金分配団体がコンソーシアム内で「知の移転」をすすめるために連携をとりながら意見交換および学びあいを積極的に行っている。

3 事務局体制の整備と充実

財団事務局の事務事業を細分化し業務分担することで的確な組織運営を行う。（一社）なんと未来支援センターとの連携により資金、ノウハウ、ネットワークでの支援体制を整える。

【事務局体制強化】

- ・4月より事務局員2名体制、7月より事務局長が加わり3名体制となり、事務局体制を強化した。一方で、助成事業「頑張る人・地域応援事業（春・秋2回）」において公募・審査・採択、「休眠預金等活用事業（2020年度、2021年度）」において公募・審査・採択・伴走支援等の事業実施ため、事務局業務量が増加している。そのため、管理体制面においては人的資源の不足は続いている。組織基盤強化のための体制整備及び構築に向けてさらなる検討が必要である。

【プログラムオフィサーの育成】

- ・休眠預金等活用事業の研修プログラムの受講。
- ・「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」における学び合い（定例ミーティングの参加、採択実行団体への視察等）を通じて、知見を共有し、プログラムオフィサーとしての育成につなげている。
- ・准認定ファンドレイザー研修 (<https://jfra.jp/cfr/what>) 事務局員1名が受講。

【なんと未来支援センターとの連携】

なんと未来支援センターを通じて地域づくり協議会連合会定例会に参加し、財団の情報発信を行っている。両団体として情報共有をおこなっているもののまだ限定的なものであるため、現状では、まちづくりに関する相談をワンストップサービスとして受ける体制とはなっていない。地域の困りごとの解決や、ソーシャル・コミュニティビジネスの展開をすすめるために、更なる情報共有体制の構築を目指していくことが重要である。

4 基金活用事業の募集と支援の研究

基金運用に伴う支援事業の募集を行うことにより、まちづくり事業を支援し、地域の諸課題の解決に寄与していく。地域資源を活用した取り組みを応援する事業（頑張る人・地域応援事業）、特定の事業に関する助成プログラムの検討（目的別基金：森林に関するもの、移動に関するもの）及び休眠預金等活用事業の助成事業を実施した。

【頑張る人・地域応援事業】

地域資源を活かした取り組みであり、当財団が掲げる7つのテーマに即した事業を募集するもの。毎年度5月、10月に公募を実施し、1回あたり助成総額90万円で1団体あたり上限30万円。助成期間は1年を基本とし、最長3年までとしている。令和3年度は第3回、第4回を実施した。採択団体に対しては、随時ヒアリングを行い、事業の進捗確認や相談等を聴くなど、実行団体とのつながりを持てるよう心がけている。

◆公募の事業テーマ

- ・暮らしを支える事業
- ・森里川海のつながりを保全する事業
- ・生業・起業・ものづくりを支える事業
- ・地域の食と農業を支える事業
- ・子ども・若者を支える事業
- ・再生可能エネルギーを支える事業
- ・地域の歴史・土徳文化を支える事業

◆第3回頑張る人・地域応援事業

- ・公募期間 令和3年5月1日～5月31日
- ・採択団体 4団体（応募5団体）
- ・採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
(一社) Casa つむぐプロジェクト南砺	①交流人口・関係人口対策 ②麻布の普及 ③農家のB品活用 ④大学との連携と事業評価 ⑤地域再生のシナリオ作成	300,000円 (472,000円)
東太美地域づくり協議会	地域づくり協議会と榊福光タクシーが送迎契約を結び送迎希望の高齢者サロン参加者の送迎を行う。	150,000円 (288,000円)
NPO 法人なんと元気	自力で人に頼ることのできる人と自力で声をあげられない人、双方に声をかけられる仕組みづくり。事業実施者間での事例検討会	150,000円 (350,000円)

(一社) ジソウラボ	<ul style="list-style-type: none"> ・移動を困難に感じている高齢者を対象として自動運転シニアカーを利用した、自動運転デジタル技術の実証実験 ・シェアリングを行うための配車アプリの試作 	300,000 円 (900,000 円)
合計助成額		900,000 円

- ・審査選考委員会 令和3年6月30日(木) 14:00～
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員
 - (理事・業務執行理事) *委員長
 - (理事・業務執行理事)
 - (理事・業務執行理事)
 - (理事・業務執行理事)
 - (外部委員 北陸銀行福光支店長兼城端支店長)

◆第4回頑張る人・地域応援事業

- ・公募期間 令和3年10月1日～10月31日
- ・採択団体 3団体 (応募4団体)
- ・採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
池川散歩みちグループ	グループが9年間かけて培ってきた野外の活動に加え、不登校児の活動拠点・交流の場づくり。城端地内での福祉交流館としての活動の基礎をつくる。	100,000 円 (168,000 円)
石井 和	学生に対してトークイベントを行い、職業選択の自由度を実感してもらう。 閑乗寺公園を会場として絵を通したワークショップ等を行い南砺市の魅力発信を行う。	300,000 円 (515,000 円)
井波日本遺産推進協議会	小学校児童を募集して、屋台の子供踊りを伝承する。	300,000 円 (540,000 円)
合計助成額		700,000 円

- ・審査選考委員会 令和3年11月15日(月) 13:30～
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員
 - (理事・業務執行理事) *委員長
 - (理事・業務執行理事)
 - (理事・業務執行理事)
 - (理事・業務執行理事)
 - (外部委員 北陸銀行福光支店長兼城端支店長)

選考委員会は、第3回と第4回とも申請者のプレゼンテーション10分、質疑10分、審査表の記入10分(1団体30分)にて行った。

【休眠預金等活用事業】

○「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成 28 年度法律第 101 号）」に基づき 2009 年 1 月 1 日以降の取引から 10 年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。

（公財）南砺幸せ未来基金は（公財）うんなんコミュニティ財団、（公財）東近江三方よし基金とコンソーシアムを組んで、休眠預金等活用事業の指定活用団体である（一社）日本民間公益活動連携機構が公募した資金分配団体に採択された。

（公財）南砺幸せ未来基金が資金分配団体として、南砺市内で取組みを実施する実行団体を募集し助成するもの。

昨年度のテーマであった「孤立者支援」から更に「日常の暮らしの中で生きづらさを感じる社会的困難者」を支援する。このため社会的困難者を支援する（スタートアップ、ステップアップしたい）団体を見出し、「1）社会的困難者をつながるための多様なアクセス環境の整備、2）社会的困難者をつながり続けるための多様なサポート体制づくり、3）社会的困難者と地域をつなげるために実行団体が活動する地域の地域自治組織や行政など関係組織との協働のしくみの構築を試みる。」という活動を支援する。これらの活動により、地域における複雑化した社会課題を解決するために人と人、人と資金等をつなぎ社会関係資本を拡張し重層化する。結果、住民自治組織のベースのもと地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超え、ヒト・モノ・情報・志金をつなげて、社会的困難者をはじめとした住民一人ひとりの暮らしを支える状態になり、誰もが他人のことを自分ごとにも思い支え合える循環型全世代型地域共生社会の実現を目指す。また、このコンソーシアムにより、市域レベルのローカルアクションの知の構造化を図る。

- ・公募事業名 社会的困難者を支えるローカルアクション
- ・実行団体公募期間 2021 年 11 月 29 日から 2022 年 1 月 31 日まで
- ・採択団体数 3 団体（申請団体数：6 団体）
- ・事業実施期間 2022 年 4 月より 2025 年 2 月まで（3 ヶ年）

○実行団体の決定

実行団体の公募を 11 月 29 日から 1 月 31 日まで行い、6 団体の応募があった。2 月 24 日に審査会を実施し、3 団体を選考。3 月 7 日の理事会にて内定を決定した。採択団体は事業計画、資金計画、評価計画のブラッシュアップを実施した上で、令和 4 年 4 月に当財団と資金提供契約を締結した。

- ・審査会 令和 4 年 2 月 24 日（木）13：00～
アスモ 2F 大会議室
- ・選考委員 ■■■■■（富山大学附属病院総合診療部教授）*委員長
■■■■■（株式会社御祓川代表取締役社長）
■■■■■（砺波人権擁護委員協議会南砺地区会長）
■■■■■（株）富山銀行ソリューション営業部ソーシャル・ソリューション室企画役補佐）
■■■■■（南砺市総合政策部長）

・採択団体の概要

実行団体名	よってカフェ（井波地域）	助成額/総事業費	20,532,000 円 / 25,877,400 円
事業名	生きづらさを抱える人も幸せになれる地域の居場所づくり		
事業概要	【発達障がいやグレーゾーンを含む子どもたちだけでなく普通の子どもや保護者も気軽に集うことができる身近な居場所】 ・行政でも病院でも学校でもない多機能空間づくり。（相談窓口） ・関係団体と連携し、障がいの有無によらず認め合い、刺激し合い、共生していく多様性を抱えた地域社会モデルを発信。		

実行団体名	(一社) さざんくろす (城端地域)	助成額/総事業費	15,020,300 円	/	19,453,800 円
事業名	色々な障がいを知って繋がる場所づくり				
事業概要	【障がい者就労継続支援事業所の新規事業】 障がい者、障がいと接点となる場づくり (カフェ) ・市等の関係機関、支援制度に繋ぐことができる身近な地域の相談窓口。 ・障がい等の有無に関係なく一人の住民として、地域と繋がり、楽しく、自由に表現・能力を発揮できる地域をつくる。				

実行団体名	(農) 大鋸屋営農組合 (城端地域)	助成額/総事業費	14,802,400 円	/	18,445,000 円
事業名	中山間地の地域コミュニティーを維持し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指す。				
事業概要	・後継者がいない高齢農業者が安心して先祖伝来の田畑を任せられる環境。 ・新規就農者(若者・移住者・女性等)へ研修を行い生活的自立を支える。 ・集落営農組織が経営の安定や人材育成により持続可能性を高める。				

・助成金合計額 48,697,700 円
 (内訳：休眠預金 47,697,700 円、南砺幸せ未来基金 1,500,000 円)

○プログラムオフィサー

休眠預金等活用事業の助成には、プログラムオフィサーが伴走支援を行う。

当財団のプログラムオフィサーは■■■■ (2020年度2団体、2021年度1団体)、■■■■ (2020年度2団体)、■■■■ (2021年度2団体) が担当し、事業終了まで伴走支援を実施する。

II 運営に関する実績

1. 寄付金の状況

一般寄付 10 件、825,852 円
 サポーター会員年会費 4 件、400,000 円

2. 会議状況

(1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第1回 業務執行理事会	5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議員会の開催について ・令和2年度事業報告(案)及び収支決算書(案)について ・2021年度休眠預金の応募について ・役員の変更について ・事務局長について ・会計ソフト導入について ・頑張る人・地域応援事業について

第2回 業務執行理事会	10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度休眠預金事業について ・電子地域通貨について ・頑張る人・地域応援事業の選考委員会について ・日本財団「こども第三の居場所」について ・サポーター会員規約について ・寄付部会について ・遺贈寄付サポートについて
第3回 業務執行理事会	11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張る人・地域応援事業審査報告について ・2021年度休眠預金事業について ・2022年度役員について ・5ヵ年ロードマップと今後の方向性について ・2022年度経営計画について
第4回 業務執行理事会	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度休眠預金事業の進捗について ・日本財団「こども第三の居場所」進捗について ・レガシーギフト協会加盟団体への申請について ・新ロゴマークについて ・採用について ・事業活動報告会について ・協働のまちづくり支援センターの在り方について

(2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	6月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告について ・令和2年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について ・補欠理事の選任について ・重要な使用人の選任について ・評議員会の開催及び目的事項の決定について
第2回理事会	8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回頑張る人・地域応援事業の結果について ・2021年度休眠預金事業について ・地域通貨「土徳コインプロジェクト」について ・災害支援金について
第3回理事会	9月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度休眠預金事業の結果について ・サポーター会員規約について ・地域通貨「土徳コインプロジェクト」について ・遺贈について ・情報発信・広報について ・南砺100年の森基金について

第4回理事会	1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター会員制度について ・ロゴマークについて ・遺贈について
第5回理事会	3月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠預金等活用助成事業の実行団体採択の承認について ・令和4年度事業計画（案）の承認について ・令和4年度収支予算（案）の承認について ・令和4年度役員改正案について

(3) 評議員会

会議名	日時	内容
第1回評議員会 （書面決議）	6月23日	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度事業報告について 令和2年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について 補欠理事の選任について

(4) 監査の実施

令和4年5月16日、監事（2名）が令和3年度の監査を実施し監査報告書を作成した。

（参考記載）事務局会議（*定款に定めはないが、業務執行理事会の議題の整理・調整のため実施したもの）

年度内に46回の事務局会議を実施した。

3. 寄付者名簿作成

令和2年度に引き続き、寄付者の名簿を整備した。

4. 受託事業

南砺市より資金循環に資する取り組みを進める目的の業務委託を受託している。

1 地域内資金循環システム構築事業

契約額:880,000円

期間:令和3年4月1日から令和4年3月31日

内容:地域内の経済循環を促進し域内消費を高める手段として「電子地域通貨」の調査研究を実施。また多様化する社会課題解決の方策の一つとしてのソーシャルインパクトボンドについても調査を実施している。電子地域通貨は実装に向けて協議会に今後参画する予定としており、地域共生社会と循環型社会の形成に寄与すべく行政ほか関係各所と連携しながら推進していく。

2 地域伴走支援体制強化事業

契約額:4,312,000円

期間:令和3年7月1日から令和4年3月31日

内容:多様化し複雑化している社会課題解決への取り組みを実施することを目的に受託。具体的には、弊財団が課題解決能力を高めるために人材育成を実施し、地域内の活動の伴走支援を行えるよう体制構築を進めた。課題の収集整理、分析を行う中で打ち手となる助成プログラムの検討や助成した団体または相談案件について伴走支援を実施している

5. 他機関等の連携
特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

【連携団体】

- ・南砺市
事業の受託、事務局業務
- ・（一社）なんと未来支援センター
地域課題解決に向けた情報共有と連携
- ・公益財団法人東近江三方よし基金、公益財団法人うんなんコミュニティ財団
休眠預金事業の資金分配団体としてコンソーシアムを構成

- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
休眠預金事業の指定活用団体

令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について

公益認定を受けた前後で法人の名称や組織運営に係る規則が変更されることから、一般財団法人が公益認定を受けた際には、公益認定の前後で計算書類等の作成期間を区分する必要がある。(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第38条第2項)

当財団は令和元年12月1日に公益認定を受けている。そのため下記のとおり、作成期間を区分した。

- (1) 一般財団法人南砺幸せ未来基金として
平成31年4月1日から令和元年11月30日まで
(事業開始日より公益認定を受ける前日まで)
- (2) 公益財団法人南砺幸せ未来基金として
令和元年12月1日から令和2年3月31日まで
(公益認定日から事業終了日まで)

また平成30年度との比較のため、

- (3) 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの1ヶ年の財務諸表も作成している。

貸借対照表
令和元年11月30日現在

一般財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	当年度 (令和元年 11月30日現在)	前年度 (平成31年 3月31日現在)	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	282,611	3,253,141	△ 3,225,841
未収金	2,728,000		2,728,000
流動資産合計	3,010,611	3,253,141	△ 242,530
2. 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	3,000,000	0	3,000,000
基本財産合計	3,000,000	0	3,000,000
(2)特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3)その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	3,000,000	0	3,000,000
資産合計	6,010,611	3,253,141	2,757,470
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	18,150	0	18,150
流動負債合計	18,150	0	18,150
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	18,150	0	18,150
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当金)	5,992,461	3,253,141	2,739,320
(うち特定資産への充当金)	(3,000,000)	0	△ 3,000,000
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
正味財産合計	5,992,461	3,253,141	2,739,320
負債及び正味財産合計	6,010,611	3,253,141	2,757,470

貸借対照表

令和2年3月31日現在

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	当年度 (令和2年 3月31日現在)	前年度 (令和元年 11月30日現在)	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	675,775	282,611	△ 3,225,841
未収金	858,000	2,728,000	△ 1,870,000
貯蔵品	61,200		
流動資産合計	1,594,975	3,010,611	△ 1,415,636
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
什器備品	148,016		148,016
減価償却累計額	△ 49,338		△ 49,338
その他固定資産合計	98,678	0	98,678
固定資産合計	3,098,678	3,000,000	98,678
資産合計	4,693,653	6,010,611	△ 1,316,958
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	98,650	18,150	80,500
流動負債合計	98,650	18,150	80,500
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	98,650	18,150	80,500
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
2. 一般正味財産	4,595,003	5,992,461	△ 1,397,458
(うち基本財産への充当金)	0	(3,000,000)	3,000,000
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
正味財産合計	4,595,003	5,992,461	△ 1,397,458
負債及び正味財産合計	4,693,653	6,010,611	△ 1,316,958

貸借対照表

令和2年3月31日現在

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	当年度 (令和2年 3月31日現在)	前年度 (平成31年3月31日現在)	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	675,775	3,253,141	△ 3,225,841
未収金	858,000		858,000
貯蔵品	61,200		61,200
流動資産合計	1,594,975	3,253,141	△ 1,658,166
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000		3,000,000
基本財産合計	3,000,000	0	3,000,000
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
什器備品	148,016		148,016
減価償却累計額	△ 49,338		△ 49,338
その他固定資産合計	98,678	0	98,678
固定資産合計	3,098,678	0	3,098,678
資産合計	4,693,653	3,253,141	1,440,512
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	98,650		98,650
流動負債合計	98,650	0	98,650
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	98,650	0	98,650
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当金)	4,595,003	3,253,141	1,341,862
(うち特定資産への充当金)	(3,000,000)		△ 3,000,000
正味財産合計	0	0	0
正味財産合計	4,595,003	3,253,141	1,341,862
負債及び正味財産合計	4,693,653	3,253,141	1,440,512

正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和元年11月30日まで

一般財産法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	平成31年度決算額 (平成31年4月1日～ 令和元年11月30日)	平成30年度決算額 (平成31年度2月1日～ 3月31日)	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	42,300	3,620,000	△ 3,577,700
雑収益	2,728,007	10	2,727,997
受取利息	7	10	△ 3
市業務委託	2,728,000		2,728,000
経常収益計	2,770,307	3,620,010	△ 849,703
(2) 経常費用			
管理費計	20,887	366,869	△ 345,982
臨時雇賃金	18,150		18,150
福利厚生費	873		873
消耗什器備品費		21,600	△ 21,600
印刷製本費		121,284	△ 121,284
租税公課	1,000		1,000
支払手数料		223,445	△ 223,445
振込手数料	864	540	324
経常費用計	20,887	366,869	△ 345,982
評価損益等調整前当期経常増減額	2,749,420	3,253,141	△ 503,721
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,749,420	3,253,141	△ 503,721
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	2,749,420	3,253,141	△ 503,721
法人税等	10,100		10,100
当期一般正味財産増減額	2,739,320	3,253,141	△ 513,821
一般正味財産期首残高	3,253,141	0	3,253,141
一般正味財産期末残高	5,992,461	3,253,141	2,739,320
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金額等計	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	5,992,461	3,253,141	2,739,320

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金		3,000,000		3,000,000
小計		3,000,000		3,000,000
特定資産				
小計				
合計		3,000,000		3,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000	()	(3,000,000)	-
小計	3,000,000	()	(3,000,000)	-
特定資産				
小計				
合計	3,000,000	()	(3,000,000)	()

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	2,728,000	0	2,728,000
合計	2,728,000	0	2,728,000

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」参照。

正味財産増減計算書

令和元年12月1日～令和2年3月31日まで

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	令和元年度決算 (令和元年12月1日～ 令和2年3月31日)	平成31年度決算 (平成31年4月1日～ 令和元年11月30日)	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	89,875	42,300	47,575
雑収益	858,006	2,728,007	△ 1,870,001
受取利息	6	7	△ 1
市業務委託	858,000	2,728,000	△ 1,870,000
経常収益計	947,881	2,770,307	△ 1,822,426
(2) 経常費用			
事業費計	631,594		631,594
印刷製本費	519,200		519,200
会議費	734		734
賃貸料	7,700		7,700
諸謝金	100,000		100,000
振込手数料	3,960		3,960
管理費計	613,745	20,887	592,858
臨時雇賃金	307,725	18,150	289,575
旅費交通費	37,150		37,150
福利厚生費		873	△ 873
消耗品費	52,552		52,552
消耗什器備品費	139,700		139,700
減価償却費	49,338		49,338
租税公課	880	1,000	△ 120
支払手数料	22,000		22,000
振込手数料	4,400	864	3,536
経常費用計	1,245,339	20,887	1,224,452
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 297,458	2,749,420	△ 3,046,878
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 297,458	2,749,420	△ 3,046,878
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
市委託費返還	1,100,000	0	1,100,000
経常外費用計	1,100,000	0	1,100,000
当期経常外増減額	△ 1,100,000	0	△ 1,100,000
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,397,458	2,749,420	△ 4,146,878
法人税等		10,100	△ 10,100
当期一般正味財産増減額	△ 1,397,458	2,739,320	△ 4,136,778
一般正味財産期首残高	5,992,461	3,253,141	2,739,320
一般正味財産期末残高	4,595,003	5,992,461	△ 1,397,458
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金額等計	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,595,003	5,992,461	△ 1,397,458

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・定額法（ただし取得価額10万円以上20万円未満の什器備品については一括償却法）

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	3,000,000			3,000,000
小計	3,000,000			3,000,000
特定資産				
小計				
合計	3,000,000			3,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000	()	(3,000,000)	-
小計	3,000,000	()	(3,000,000)	-
特定資産				
小計				
合計	3,000,000	()	(3,000,000)	()

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	858,000	0	858,000
合計	858,000	0	858,000

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」参照。

正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日まで

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

科目	令和元年度決算 (平成31年4月1日～ 令和2年3月31日)	平成30年度決算 (平成31年2月1日～ 3月31日)	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	132,175	3,620,000	△ 3,487,825
雑収益	3,586,013	10	3,586,003
受取利息	13	10	3
市業務委託	3,586,000		3,586,000
経常収益計	3,718,188	3,620,010	98,178
(2) 経常費用			
事業費計	631,594		631,594
印刷製本費	519,200		519,200
会議費	734		734
賃貸料	7,700		7,700
諸謝金	100,000		100,000
振込手数料	3,960		3,960
管理費計	634,632	366,869	267,763
臨時雇賃金	325,875		325,875
旅費交通費	37,150		37,150
福利厚生費	873		873
消耗品費	52,552		52,552
消耗什器備品費	139,700	21,600	118,100
減価償却費	49,338		49,338
印刷製本費		121,284	△ 121,284
租税公課	1,880		1,880
支払手数料	22,000	223,445	△ 201,445
振込手数料	5,264	540	4,724
経常費用計	1,266,226	366,869	899,357
評価損益等調整前当期経常増減額	2,451,962	3,253,141	△ 801,179
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,451,962	3,253,141	△ 801,179
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
市委託費返還	1,100,000	0	1,100,000
経常外費用計	1,100,000	0	1,100,000
当期経常外増減額	△ 1,100,000	0	△ 1,100,000
税引前当期一般正味財産増減額	1,351,962	3,253,141	△ 1,901,179
法人税等	10,100		10,100
当期一般正味財産増減額	1,341,862	3,253,141	△ 1,911,279
一般正味財産期首残高	3,253,141		3,253,141
一般正味財産期末残高	4,595,003	3,253,141	1,341,862
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金額等計	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,595,003	3,253,141	1,341,862

令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について

公益認定を受けた前後で法人の名称や組織運営に係る規則が変更されることから、一般財団法人が公益認定を受けた際には、公益認定の前後で計算書類等の作成期間を区分する必要がある。(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第38条第2項)

当財団は令和元年12月1日に公益認定を受けている。そのため下記のとおり、作成期間を区分した。

- (1) 一般財団法人南砺幸せ未来基金として
平成31年4月1日から令和元年11月30日まで
(事業開始日より公益認定を受ける前日まで)

- (2) 公益財団法人南砺幸せ未来基金として
令和元年12月1日から令和2年3月31日まで
(公益認定日から事業終了日まで)

また平成30年度との比較のため、

- (3) 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの1ヶ年の財務諸表も作成している。

財産目録

令和元年11月30日 現在

一般財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	普通預金 富山銀行 井波支店	運転資金として	282,611
	未収金	南砺市	公1 体制構築事業の受託事業収益である	2,728,000
流動資産合計				3,010,611
(固定資産)	定期預金	富山銀行 井波支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用する。	3,000,000
基本財産				
固定資産合計				3,000,000
資産合計				6,010,611
(流動負債)	未払金	臨時雇用賃金	11月分	18,150
負債合計				18,150
正味財産				5,992,461

財産目録

令和2年3月31日 現在

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	預金	普通預金 富山銀行 井波支店	運転資金として	675,775	
	未収金	南砺市	公1 調査事業の受託事業収益である	858,000	
	貯蔵品	切手 ¥84・¥120 各300枚	公益目的事業及び管理目的の業務を執行する費用である。	61,200	
流動資産合計				1,594,975	
(固定資産)	基本財産	定期預金	富山銀行 井波支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用する。	3,000,000
	その他固定資産	什器備品	パソコン	公益目的事業、法人運営全般	98,678
固定資産合計				3,098,678	
資産合計				4,693,653	
(流動負債)	未払金	臨時雇用賃金	3月分	98,650	
負債合計				98,650	
正味財産				4,595,003	

監査報告書

公益財団法人南砺幸せ未来基金

代表理事 南 眞司 殿

令和2年5月22日

公益財団法人南砺幸せ未来基金

監事 菊野一裕

監事 山下香樹

私たちは、関連法令及び定款に基づき、一般財団法人南砺幸せ未来基金（自平成31年4月1日至令和元年11月30日）並びに公益財団法人南砺幸せ未来基金（自令和元年12月1日至令和2年3月31日）のそれぞれの事業年度の業務監査及び会計監査を実施し、次の通り報告する。

1、監査方法概要

- （1）会計監査について、帳簿及び関係書類閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討した。
- （2）業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事等から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見

- （1）業務執行は法令及び定款に従い誠実に行われており、事業報告書の内容は相当であると認める。
- （2）理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。
- （3）財務諸表及びこれらの附属明細書並びに財産目録は法人の正味財産の増減及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

貸借対照表
令和3年3月31日現在

公益財団法人 南研幸せ未来基金

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,537,535	675,775	861,760
未収金	760,100	858,000	△ 97,900
貯蔵品	32,040	61,200	△ 29,160
流動資産合計	2,329,675	1,594,975	734,700
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
什器備品	148,016	148,016	0
減価償却累計額	△ 98,677	△ 49,338	△ 49,339
その他固定資産合計	49,339	98,678	△ 49,339
固定資産合計	3,049,339	3,098,678	△ 49,339
資産合計	5,379,014	4,693,653	685,361
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	836,030	98,650	737,380
預り金	3,638	0	3,638
流動負債合計	839,668	98,650	741,018
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	839,668	98,650	741,018
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
休眠預金等交付金	0		0
寄付金	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
2. 一般正味財産	4,539,346	4,595,003	△ 55,657
(うち基本財産への充当金)	(3,000,000)	(3,000,000)	0
(うち特定資産への充当金)	0	0	0
正味財産合計	4,539,346	4,595,003	△ 55,657
負債及び正味財産合計	5,379,014	4,693,653	685,361

令和2年度正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益財団法人南砺幸せ未来基金

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	[0]	[0]	[0]
②特定資産運用益	[0]	[0]	[0]
③事業収益	[760,100]	[3,586,000]	[△ 2,825,900]
受託事業	760,100	3,586,000	△ 2,825,900
受取休眠預金等交付金	0	0	0
④受取補助金等	[0]	[0]	[0]
受取民間補助金	0	0	0
⑤受取負担金	[0]	[0]	[0]
受取負担金	0	0	0
⑥受取寄付金	[3,563,000]	[132,175]	[3,430,825]
受取寄付金	3,015,000	0	3,015,000
受取寄付金振替額	(548,000)	(132,175)	(415,825)
指定正味財産からの振替額	548,000	132,175	415,825
⑦雑収益	[274]	[13]	[261]
受取利息	274	13	261
雑収益	0	0	0
経常収益計	4,323,374	3,718,188	605,186
(2) 経常費用	0		0
事業費	[3,164,251]	[111,514]	[3,052,737]
支払助成金	2,361,893		2,361,893
給料手当	0		0
臨時雇賃金	157,500		157,500
会議費	22,467	734	21,733
旅費交通費	8,400		8,400
通信運搬費	4,482		4,482
消耗品費	74,496		74,496
消耗什器備品費	0		0
印刷製本費	603		603
賃借料	61,805	7,700	54,105
諸謝金	100,000	100,000	0
租税公課	200		200
委託費	299,370		299,370
調査費	0		0
支払手数料	61,155		61,155
振込手数料	11,880	3,080	8,800
管理費	[1,214,780]	[1,154,712]	[60,068]
臨時雇賃金	695,828	325,875	369,953
法定福利費	0		0
福利厚生費	2,200	873	1,327
会議費	4,400		4,400
旅費交通費	62,300	37,150	25,150
通信運搬費	31,406		31,406
減価償却費	49,339	49,338	1
消耗什器備品費	0	139,700	△ 139,700
消耗品費	9,169	52,552	△ 43,383
印刷製本費	0	519,200	△ 519,200
新聞図書費	8,250		8,250
賃借料	12,100		12,100
諸謝金	87,140		87,140
租税公課	7,060	1,880	5,180
委託費	132,000		132,000
支払負担金	50,000		50,000
支払手数料	55,338	22,000	33,338
振込手数料	8,250	6,144	2,106
諸会費	0		0

科目	当年度	前年度	増減
雑費	0		0
経常費用計	4,379,031	1,266,226	3,112,805
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 55,657	2,451,962	△ 2,507,619
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 55,657	0	△ 55,657
2.経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
市委託費返還	0	1,100,000	△ 1,100,000
経常外費用計	0	1,100,000	△ 1,100,000
当期経常外増減額	0	△ 1,100,000	1,100,000
税引前当期一般正味財産増減額	△ 55,657	1,351,962	△ 1,407,619
法人税等	0	10,100	△ 10,100
当期一般正味財産増減額	△ 55,657	1,341,862	△ 1,397,519
一般正味財産期首残高	4,595,003	3,253,141	1,341,862
一般正味財産期末残高	4,539,346	4,595,003	△ 55,657
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	[0]	[0]	[0]
休眠預金等交付金	0	0	0
受取寄付金	[548,000]	[0]	[548,000]
受取寄付金	548,000	0	548,000
一般正味財産への振替額	[△ 548,000]	[0]	[△ 548,000]
一般財産への振替	(△ 548,000)	(0)	(△ 548,000)
寄付金	△ 548,000	0	△ 548,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味期末残高	4,539,346	4,595,003	△ 55,657

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・定額法（ただし取得価額10万円以上20万円未満の一括償却資産については、3年間の均等償却を実施している。）

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	3,000,000			3,000,000
小計	3,000,000			3,000,000
特定資産				
小計				
合計	3,000,000			3,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000	()	(3,000,000)	-
小計	3,000,000	()	(3,000,000)	-
特定資産				
小計				
合計	3,000,000	()	(3,000,000)	()

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品（パソコン）	148,016	98,677	49,339
合計	148,016	98,677	49,339

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	760,100	0	760,100
合計	760,100	0	760,100

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」参照。

財産目録

令和3年3月31日 現在

公益財団法人 南砺幸せ未来基金

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	7
	預金	普通預金 富山銀行 井波支店	運転資金として	1,537,528
	未収金	南砺市	公1 調査事業の受託事業収益である	760,100
	貯蔵品	切手 ¥120 各267枚	公益目的事業及び管理目的の業務を執行する費用である。	32,040
流動資産合計				2,329,675
(固定資産)				
基本財産	定期預金	富山銀行 井波支店	公益目的保有財団であり、運用益を公益目的事業の財源として使用する。	3,000,000
その他固定資産	什器備品	パソコン	公益目的事業、法人運営全般	49,339
固定資産合計				3,049,339
資産合計				5,379,014
(流動負債)	未払金	委託費	ウェブサイト構築	132,000
		臨時雇賃金	3月 3名分	198,450
		旅費交通費	臨時雇交通費	2,200
		支払助成金	頑張る人・地域応援事業精算金(6団体)	503,380
	預り金	12月～2月	所得税(賃金)	3,638
負債合計				839,668
正味財産				4,539,346

監査報告書

公益財団法人南砺幸せ未来基金
代表理事 南 眞司 殿

令和 3 年 6 月 / 日

公益財団法人南砺幸せ未来基金

監事 菊野一裕

監事 山下秀樹

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	58,199,580	1,537,535	56,662,045
未収金	1,438,000	760,100	677,900
貯蔵品	32,040	32,040	0
流動資産合計	59,669,620	2,329,675	57,339,945
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
特定費用準備資金	1,650,000	0	1,650,000
特定資産合計	1,650,000	0	1,650,000
(3) その他固定資産			
什器備品	148,016	148,016	0
什器備品減価償却累計額	-148,016	-98,677	-49,339
その他の固定資産合計	0	49,339	-49,339
固定資産合計	4,650,000	3,049,339	1,600,661
資産合計	64,319,620	5,379,014	58,940,606
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	713,139	836,030	-122,891
預り金	13,715	3,638	10,077
流動負債合計	726,854	839,668	-112,814
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	726,854	839,668	-112,814
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	56,613,765	0	56,613,765
2. 一般正味財産			
(2) その他一般正味財産			
一般正味財産	6,979,001	4,539,346	2,439,655
(うち基本財産への充当額)	-3,000,000	0	-3,000,000
(うち特定資産への充当額)	-1,650,000	0	-1,650,000
正味財産合計	63,592,766	4,539,346	59,053,420
負債及び正味財産合計	64,319,620	5,379,014	58,940,606

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
受取入会金	0	0	0
受取会費	400,000	0	400,000
賛助会員受取会費	400,000	0	400,000
事業収益	5,192,000	760,100	4,431,900
受託事業	5,192,000	760,100	4,431,900
受取補助金等	19,518,915	0	19,518,915
受取補助金等振替額	19,518,915	0	19,518,915
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	825,852	3,563,000	-2,737,148
受取寄付金	825,852	3,015,000	-2,189,148
受取寄付金振替額	0	548,000	-548,000
指定正味財産からの振替額	0	548,000	-548,000
為替差益	0	0	0
雑収益	1,559	274	1,285
受取利息	73	274	-201
雑収益	1,486	0	1,486
経常収益計	25,938,326	4,323,374	21,614,952
(2) 経常費用			0
事業費	22,463,860	3,164,251	19,299,609
給料手当	1,983,300	0	1,983,300
臨時雇賃金	1,363,500	157,500	1,206,000
旅費交通費	302,215	8,400	293,815
通信運搬費	50,904	4,482	46,422
消耗品費	273,399	74,496	198,903
印刷製本費	74,800	603	74,197
賃借料	140,090	61,805	78,285
諸謝金	277,840	100,000	177,840
租税公課	7,400	200	7,200
支払助成金	17,598,600	2,361,893	15,236,707
委託費	341,000	299,370	41,630
支払手数料	2,420	61,155	-58,735
振込手数料	0	11,880	-11,880
会議費	48,392	22,467	25,925
管理費	1,500,985	1,214,780	286,205
臨時雇賃金	224,792	695,828	-471,036
法定福利費	296,895	0	296,895
福利厚生費	0	2,200	-2,200
会議費	8,000	4,400	3,600
旅費交通費	9,318	62,300	-52,982
通信運搬費	66,698	31,406	35,292
消耗什器備品費	93,280	0	93,280
消耗品費	280,859	9,169	271,690
印刷製本費	100,122	0	100,122
新聞図書費	0	8,250	-8,250
賃借料	14,300	12,100	2,200
諸謝金	87,140	87,140	0
租税公課	1,200	7,060	-5,860
委託費	0	132,000	-132,000
支払負担金	12,500	50,000	-37,500
支払寄付金	80,000	0	80,000
支払手数料	76,542	55,338	21,204
振込手数料	0	8,250	-8,250
諸会費	100,000	0	100,000
減価償却費	49,339	49,339	0
経常費用計	23,964,845	4,379,031	19,585,814
評価損益調整前経常増減額	1,973,481	-55,657	2,029,138

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,973,481	-55,657	2,029,138
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
固定資産売却益	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
固定資産売却損	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0
災害損失	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	1,973,481	-55,657	2,029,138
他会計振替額	466,174	0	466,174
当期一般正味財産増減額	2,439,655	-55,657	2,495,312
一般正味財産増減額	2,439,655	-55,657	2,495,312
一般正味財産期首残高	4,539,346	4,595,003	-55,657
一般正味財産期末残高	6,979,001	4,539,346	2,439,655
II 指定正味財産増減の部			0
受取補助金等	76,132,680	0	76,132,680
休眠預金等交付金	76,132,680	0	76,132,680
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	548,000	-548,000
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
一般正味財産への振替額	-19,518,915	-548,000	-18,970,915
当期指定正味財産増減額	56,613,765	0	56,613,765
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	56,613,765	0	56,613,765
III 正味財産期末残高			0
正味財産期末残高	63,592,766	4,539,346	59,053,420

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・定額法（ただし取得価額10万円以上20万円未満の一括償却資産については、3年間の均等償却を実施している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
休眠預金等助成2020負担分	0	1,650,000	0	1,650,000
小 計	0	1,650,000	0	1,650,000
合 計	3,000,000	1,650,000	0	4,650,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当)	(うち一般正味財 産からの充当)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000	(0)	(3,000,000)	(0)
小 計	3,000,000	(0)	(3,000,000)	(0)
特定資産				
休眠預金等助成2020負担分	1,650,000	(0)	(1,650,000)	(0)
小 計	1,650,000	(0)	(1,650,000)	(0)
合 計	4,650,000	(0)	(4,650,000)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高（直接法により減価償却を行っている場合）

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品（パソコン）	148,016	148,016	0
合 計	148,016	148,016	0

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	1,438,000	0	1,438,000
合 計	1,438,000	0	1,438,000

1 公益財団法人 南砺幸せ未来基金

6. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表 上の 記載区分
休眠預金助成金（2020年度）	一財）日本民間公益活動連携機構	0	31,385,000	19,271,943	12,113,057	指定正味財産
休眠預金助成金（2021年度）	一財）日本民間公益活動連携機構	0	44,747,680	246,972	44,500,708	指定正味財産
合 計		0	76,132,680	19,518,915	56,613,765	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
民間助成金（休眠預金助成金2020） の事業使用による振替額	19,271,943
民間助成金（休眠預金助成金2021） の事業使用による振替額	246,972
合 計	19,518,915

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」参照。

1 公益財団法人 南砺幸せ未来基金

財 産 目 録

令和 4 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額	
(流動資産)	現金 現金預金	普通預金 富山銀行井波支店 当座預金	運転資金として	107,863	
			運転資金として	1,045,262	
		ゆうちょ銀行 普通預金	休眠預金2020年度草の根 管理用口座として	12,245,267	
			休眠預金2021年度草の根 管理用口座として	44,500,708	
		ゆうちょ銀行 当座預金	サポーター会員会費管理用口座と して	300,480	
	未収金 貯蔵品	南砺市 切手 ¥120 267枚	公1 南砺市受託事業収益である 公益目的事業及び管理目的の業務 を執行する費用である。	1,438,000 32,040	
流動資産合計				59,669,620	
(固定資産)	基本財産	定期預金	富山銀行井波支店	公益目的保有財産であり、運用益 を公益目的事業の財源として使用	3,000,000
	特定資産	特定費用準備資	普通預金 富山銀行井波支店	休眠預金等助成(2020年度)財団 負担分	1,650,000
固定資産合計				4,650,000	
資産合計				64,319,620	
(流動負債)	未払金	印刷製本費 給与手当等 臨時雇賃金 法定福利費 支払助成金	2021.4~2022.3コピー使用料	100,122	
			財団職員給与3月分	250,100	
			財団臨時職員3月分2名	147,000	
			財団職員3月分	35,917	
			頑張る人・地域応援事業精算金(2団体)	180,000	
	預り金	12月~2月	所得税(給与・賃金)	13,715	
流動負債合計				726,854	
固定負債					
固定負債合計					
負債合計				726,854	
正味財産				63,592,766	

監 査 報 告 書

公益財団法人南砺幸せ未来基金

代表理事 南 眞司 殿

令和4年5月19日

公益財団法人南砺幸せ未来基金

監事 菊野一裕

監事 山下秀樹

私たち監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1、監査方法概要

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2、監査意見

（1）事業報告等の監査結果

①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。